

# 学園ニュース

## 富山大学 No.20

編集/学園ニュース編集委員会 発行/富山大学

昭和51年7月10日

### “夏”に寄せて

文理学部長 手 崎 政 男

学窓を巣立ってから、太平洋戦争末期の二夏を兵営で送り迎えた以外は、私の生活は学校を離れることがなかったから、“夏”という季への思いは、私にとりては、夏休みとつねに重なりあっていると言える。他の職についている私の友人たちは、「教師には夏休みがあつていいな」と、異口同音に言う。確かにそれはありがたいことだとは思ふ。しかし、私にとっての夏休みは、それが即休息ということでは必ずしもなくて、むしろ慌しくかつ短く、なし終えずに残したもののばかりが多いままに、いつの年もそれは去っていったように思われる。

“夏”という国語については、「アツ（暑・温・熱）」の義または転だとも言い、あるいは、「ネツ（熱）」と通義であろうとも言い、また、「アナーアツ（噫・熱）」の義だと言うなどの諸語源説があるが、いずれにも容易に信を置きがたいとしても、“夏”と“暑さ”とは影と形とのごとくあいともなっていることは事実だ。しかしまた、“夏”という季は、一面、どこかとらえがたいものとしてあることも事実ではないだろうか。たとえば、夏はいつからいつまでのことかとたずねられると、だれもがちょっとしたまどいを覚えるかもしれない。それは夏至から秋分までの間のことだという天文学者の答えも、立夏から立秋までの間のことだという歴法学上の規定も、われわれの生活感覚としての“夏”を必ずしも言いあてていえるとは言えない。結局は、春から秋に至る間の季だと言うしかないようだ。つまり、それは“生”の過程における一種の中間期に

あたるとも言えるのだろう。“春”には発芽の期あるいは出発期としての、“秋”には結実の季あるいは終着期としての、それぞれにある確かさがあるのに対して、“夏”は、生長・移動の過渡期的な性格を有する季なのであろう。「夏休みの間、学校を離れて過ごした一年生が、再び学校にもどる九月には、全く見違えるばかりに大きく成長していることは、ほんとうに驚くばかりです」と、ある小学校の先生が述べられたことばに、私は深い意味のあることを思う。これはただに小学一年生についてだけのことではないのだろう。夏休みは決して休息のために、いわんや休止のためにあるとは言えないのだ。

“出発”と“終着”とだけを取り出してみるならば、どの“生”もが皆ひとしなみのこととしてとらえられるかも知れない。そこから、あるいは“生の悟り”とも言える何かが生ずるのでもあろう。しかし、“出発”と“終着”との間をつなぐ、それぞれの過渡期における多様な“生のいとなみ”にこそ、それぞれに充実した、かけがえのない、個々の“生”があるのではないだろうか。“夏”は、その意味において、“生”における、暑熱の汗にまみれる試練の期の象徴であり、また、それぞれの“生”の特性を十二分に発揮することの自由を謳歌することのできる季でもあるのだろう。



## ものの美しさについて

教養部長 杉 本 新 平

岩波文庫本の最終ページに、「真理は萬人によって求められることを自ら欲し、芸術は萬人によって愛されることを自ら望む」とあるが、たしかに名言だと思う。人はだれでも美しいものを好む。しかし一口に美しいものといっても、実際に何が美しいものなのかというと、人々の意見は大いに違ってくる。すべての人に美醜の分別があるとは限らない。美しさを見るのは一つの感覚であり、「猫に小判」といはれるように、感覚のないものには美しさはわからないのである。眼で見なければ絵は見えないけれども、絵の美しさは肉眼で見えるものではない。従って美しさは誰にでも見えるものではなくて、美に対する感覚をもった人だけに見えるのである。美に対する感覚や評価は、肉眼のことではなくて、心の眼、即ち精神の働きである。道徳についても同様で、道徳的感覚が低級であれば、道徳のねうちはわからない。この同じ世界に住みながら、人生の蔵する美しさ、貴さ、善さに対して無感覚な人ほど不幸なものはないであろう。

では美しさを量るものさしは何か。私は次の三点に要約できると思う。すなわち、じかに物を見たとき、第一に、それが我々に感動を与へるか否か。別の言葉でいえば、それが我々の心に浄化の作用を喚起するかどうかである。美しいものはいつでも我々を感動させずにはおかないと思う。絵画を見ても音楽を聴いても、私は常に何よりも自分の実感を尊重する。作品の価値判断は難しくても、好き嫌いは誰にも出来る。どんな伝来があろうと世間でいかにもてはやされようとも、卒直に自分に感動を与えないものは、どうしても好きにはなれぬ。好きになれないということは、私にとっていとは思えないということである。従って私の好悪はすなわち私の価値評価なのである。芸術の鑑賞においては先ずそれでいいのではなからうか。そもそも美は一種の快感である。西田幾多郎先生の説明によれば、美感とは自己を離れた快楽である、一身の利害得失を忘れたときの快楽である。この無我の一事こそ美感の要件であるという。美は理屈ではない。直覚的な真理である。だからわかるとかわからないとかいう前に、本当にいいものは必ず人に感動を与えるもとだと

思う。音楽会の会場に於てわかる人は聴衆の一割もあるだろうか、にも拘らずい演奏のときはきまって会場がしんと静かになる。またい芝居であれば観客が我を忘れて見とれている。この事実は何よりの証明であろう。

第二には、芸術は人間（魂）の表現でなければならぬということである。作品は作家の自画像であると言われるように、芸術はその仕事を通じてその人の生活の真実が出てこなくてはならぬ。器の形は心に従い、器の深さは人間の深味であり性情の浄きである。芸術作品が単なる工芸品や商品と異なるのは実にこの一点にあるといってよい。「我々に訴えるのは手よりもむしろ魂であり、技術よりもむしろ人間である」(岡倉天心)。或はまた、「絵が我々を引きつけるのは自然より美しいからではない、そこに一個の人間の魂が生きているからである」(武者小路実篤)。

そして第三に思うことは、傑作は常に平凡だということである。平凡なものの必ずしも傑作ではないけれども、傑作にして平凡でないものはない。異形異様のもので傑作はない。平凡の非凡とでもいおうか、平凡でありながら凡作にはない厳しき、深き、気高き感が感じられるところに、傑作の論理がある。真の美しさは平凡簡素、無事尋常のうちに宿るということである。「傑作はすべていかに親しみがあつ、かつ共鳴していることか」(岡倉天心)。茶祖は親しきの中に美の本質を見出し、最も深い美の相を生活に即した器物に於て見出したのである。大名物の井戸茶碗は何の変哲もない、極くあたり前の器物であり、而もその素性は朝鮮に於ける日常雑器であつたという事実を、忘れてはならぬと思う。巧(たくみ)は、「たくらみ」に通じ、技巧的なものには、とかく虚飾や嘘偽がある。「美しい」は「いつくしむ」「愛する」という言葉から来たもので、親愛を感じるものにこそ美しさが寄り添っていることを証示している。美にはさまざまな道があろうとも、結局は平常簡素の境地に帰ってくる。ものの美しさは正しい生活を想わせるようなものでこそ本当に美しく、また生活を正しくさせる作品こそ本当に美しいものであると言うべきであろう。(51・6・25)

## 新 任 教 官

- |                                |         |       |
|--------------------------------|---------|-------|
| ○五嶋 孝二 講 師（工学部）                | 51.3.1  | 担当：哲学 |
| 昭50. 3 東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了   |         |       |
| 担当：機械力学                        |         |       |
| ○井上 弘 講 師（文理学部）                | 51.4.1  |       |
| 九州歯科大学助手                       |         |       |
| 昭47. 3 九州大学大学院理学研究科博士課程修了      |         |       |
| 担当：生理学                         |         |       |
| ○佐藤 進 講 師（文理学部）                | 51.4.1  |       |
| 東京都立大学助手人文学部                   |         |       |
| 昭49. 3 東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程修了  |         |       |
| 担当：中国語・中国文学                    |         |       |
| ○高畑 広紀 助 手（薬学部）                | 51.4.1  |       |
| 昭51. 3 東京大学大学院薬学研究科博士課程修了      |         |       |
| 担当：薬品製造化学                      |         |       |
| ○山本 孝一 講 師（教養部）                | 51.4.1  |       |
| 昭49. 3 金沢大学大学院文学研究科修士課程修了      |         |       |
| 担当：ドイツ語                        |         |       |
| ○本田 弘 教 授（文理学部）                | 51.4.1  |       |
| 鳥取大学教授教養部                      |         |       |
| 昭36. 3 東北大学大学院文学研究科博士課程単位取得    |         |       |
| ○三塚 正臣 教 授（教育学部）               | 51.4.1  |       |
| 昭23. 3 東北帝国大学理学部               |         |       |
| 担当：数学科教育                       |         |       |
| ○横山 泰行 講 師（教育学部）               | 51.4.16 |       |
| 昭48. 3 東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得   |         |       |
| 担当：学校保健                        |         |       |
| ○荻田 善一 教 授（和漢薬研究所）             | 51.5.1  |       |
| 大阪大学講師医学部                      |         |       |
| 昭28. 3 大阪大学理学部生物学科             |         |       |
| 担当：病態生化学部門                     |         |       |
| ○菅井 道三 助教授（文理学部）               | 51.5.1  |       |
| 名古屋大学助手理学部                     |         |       |
| 昭35. 3 名古屋大学大学院理学研究科修士課程修了     |         |       |
| 担当：細胞生物学                       |         |       |
| ○安達 勇作 講 師（教育学部）               | 51.5.1  |       |
| 東京教育大学教諭附属大塚養護学校               |         |       |
| 昭48. 3 東京教育大学大学院教育学研究科博士課程単位取得 |         |       |
| 担当：異常児教育                       |         |       |
| ○市川 敏弘 助 手（薬学部）                | 51.6.1  |       |
| 昭51. 3 東北大学大学院農学研究科博士課程修了      |         |       |
| 担当：衛生化学                        |         |       |

## 当局へのお願い

— 挨拶にかえて —

文理学部教授 本 田 弘

本学発足当初の時期に、私は学生生活を蓮町キャンパスで過ごした。このたび縁あって本学に勤務することになった。20余年ぶりに見る富山大学は蓮町から移転しており、装いも一新されている。ところで、私の前任地は鳥取である。そこではキャンパス内の車の騒音がひどく、鳥大は、昭和48年頃、当時の学長小島公平先生の提案でキャンパス内への車の乗り入れを一切禁止することにした。以来湖山キャンパスは研究・教育の場にふさわしい静けさを取り戻している。

再び見る富山大学については、様々感じさせられるものがある。今日まで本学の発展のために努めてこられた教職員の労は多としなければならないが、労を多とするわけにはゆかない面のおおくあることも否めず、そのことが私には遺憾に思われる。とりわけ五福キャンパスのメインストリートの車の騒音には驚くほかはない。まさしく公害である。少なくとも人文科学系の教官にとっては、研究室とその周辺とが静謐であることが研究のための必須の条件である。そのかぎりにお

いては、富大がそのキャンパスを蓮町から五福へと移したことによって、得たものよりは失ったものの方がより大きいのではないかとさえ感ぜられるのである。それだけに私は、なによりもまず、メインストリート

の車の騒音の除去ということについて、なんらかの措置を講ぜられんことを、大学当局、とりわけ学長に対して要望しておきたい。

## 富山へ来て

文理学部助教授 菅 井 道 三

生まれは隣の岐阜県なのですが、今迄富山については、立山登山の際立ち寄ったことの外、殆ど足を印したことがなく、何の知識もありませんでした。

赴任前、富山は魚のおいしい所、雪の深い所と聞かされてきましたが、つかの間の独身生活の自由な時間を活用(?)して、富山の自然、人、食べもの、飲みものに親しむべく、心掛けつつあります。魚のうまさについては、神通川で獲れた鱒を食べさせてもらったりして実感を味わいつつありますが、川へ溯る鱒の数も年

年減っていると聞くと淋しい思いが致します。雪の深さについては、今の所、その実感がわきませんが、自然の厳しさが形成した人・物を知ることでもたしかめて行きたいと思います。

植物学専攻ですが、今迄、殆ど一種類の材料のみを相手にしてきたため、また前任の名古屋の教室の雰囲気のためなどから、草木の名前一つくわしくは知らない私ですが、この地の恵まれた自然を活用した、仕事が出来ようがんばりたいと思っております。

## 富山に来て70日

文理学部講師 井 上 弘

九州山 様 前略 お変わりございませんか。私は4月から富山大学に勤務しています。これまでに北陸地方を訪れたことが一度もなく、はじめての土地です。ので少々心細い気がします。大学は市内にあります。が、居住地は30分ばかり西の太閤山という所です。まだ自然が残っており散歩に出るとずい分と気持ちのよい所です。食いしんぼう君のために先ず、食卓のことから報告します。お米はとてもおいしくて食事の時には幸せな気持ちになります。魚類は九州とはずい分変わっています。大変結構な味なのがアマエビでサシミで食べます。毎日のように食べてますが、まだ飽きません。

生のタラが居て、これは鍋にするとよろしく、例の乾物からはとても連想できない、いゝ味です。次は食べてはいけない方の話しですが、野鳥がとても多く、朝バス停に立っていると数メートル程先をキジが歩いていたりします。これには全く驚き感心しています。雨はすごいです。風を伴うことが多く、横から降ります。今朝も研究室のそばにある松の木にハトが来ています、時々来ます。これを見ていると気持ちがゆったりとしてとてもいいです。この次は言葉の事を書きます。では又。

## 僻 学

文理学部講師 佐 藤 進

机上の唐本、「江氏音学十書」一帙八冊は、私の赴任を記念して、関西大学のK講師から贈られたものである。帙の内側には、漢字の発音符号の一つ、注音符母で「祝悠深入鑽研僻学」と読める文字が書きつけて

ある。「僻学」の語は、清の閻若璩<sup>えんじやくきよ</sup>が自らの著作「尚書古文疏證」に就て、僻説と称したのに本づく（と嘗てK氏と私とは聞いた。不学な私は未だその語を見出し得ない。恐らくは「潜邱札記」中の語か）閻氏は山

西太原の人。清代論学の中心、江蘇、安徽、浙江三省にはやや隔る地での述作である。しかしその著は、「古文尚書」のある部分が梅嶺<sup>ぼいぎき</sup>の偽造に係るのを始めて 確證した画期のものとなった。是に於てK氏の意は既に

明らかとなり、却って私は菲才を歎ずるほかはない。ただ、ひそかに自ら<sup>たの</sup>恃む所なしとせず、とだけ今は答え遺しておく。

## 新任の弁

和漢薬研究所教授 萩 田 善 一

五月の連休のある日、私は大阪10時35分発「雷鳥3号」に乗り富山を目指していました。いつになく、やや緊張ぎみで車窓に移り変わる野山の景色も、目にしみるような新緑の美しささえも楽しむ心のゆとりのないまゝに、私は富山に近づいて行きました。この日ほど私にとって大きな意味をもった旅はなかったからです。

私はエール大学で研究生生活を送るため、ボストンとニューヨークの中間にある小さな大学町ニユヘブンに約1年6か月程移り住んだ以外、40数年間大阪に生まれ育ちました。そんな大阪を離れるための旅だったので、一抹の不安と新しい土地に対する期待の混ざり合った複雑な気持を感じていました。

敦賀、福井、金沢、高岡と北陸の町々を過ぎ白雪を頂いた褐色の雄大な山々がぐんぐんと近づいたところが終着駅富山でした。富山駅を背に町に出た私を迎えてくれたのは、大阪のあの人ごみではなく、なつかしい路面電車の走る町でした。数時間のうちに、私はすっかり富山の町になじんでしまいました。

富山の町に、なんの抵抗感もなく溶け込めたのも、大阪と同じようにあの空爆によって破壊された廃墟の

中から再建された共通点があったせいかもしれません。住みついてから、まだ幾日も過ぎていませんが、富山の魅力を毎日新しく感じています。

本当のことをいえば、薬の富山、立山の富山ぐらゐの知識しか持っていなかった私でした。山の幸、海の幸に恵まれた富山を知るにつけ喜びを見出している毎日です。今日も、安くてうまい魚料理を喰わしてくれる店を見つけました。駅前から少し奥に入った道路に面した小さな店だったけれども、魚料理の好きな私にとって大きな発見でした。友人が富山に来たら、この小さな店に、あの山の上にあるホテルに是非とも案内してやらなければならないと思う心が、いつのまにか富山を愛する気持を育てているようです。

私は友人に会うたびに、「富山ほど良いところはない」というと、彼は「雪が降ってからいえよ」と答えます。確かにまだ富山の雪のきびしさを知りませんが、富山が好きになった気持は雪の降った後でも変わらないと思っています。ふるさとを持ったことのない都会人であった私に、新しいふるさとが出来ようとしています。そんな私に皆様方の暖かい御支援を下さるようお願い致します。

## 新任の弁

薬学部助手 市 川 敏 弘

故郷の信州を出て札幌、函館、仙台に遊学し、さらに南に下って富山で始めて就職しました。大学院では遠洋航海に出て外国見物をしながら研究ができるからという不真面目な動機から海洋学を始め、念願どおり北洋に南洋にと通算360日マリン・スノー（海雪）を追いかけてまわしてきました。男ばかりでいささかがらの悪い水産の世界からいきなり女ばかりの薬学にとびこんできて今までとはぜんぜん様子がちがうので面喰ら

っています。それに今まで私のいた学部ではとうに30を過ぎたおじさんや時にはおばさんが院生としていくらでもごろごろしていたのに薬学にきたらどちらをむいても自分よりはるか年下ばかり。最近特に年が気になります。

富山は私の感覚では南国です。大学も含めて全体的に地味なところに思えます。気候、自然、人間は北海道をドライとしたら富山はウェットに感じます。おも

しろいのは札幌、仙台などに比べたら東京の圧力があるかに弱いということ、したがってローカルカラーがちゃんと保存されていて大変けっこうなことだと思います。富大のキャンパスは小さいながらもとてもうまく設計されていて感心しました。薬学の研究室はどこに行っても私がおそれをなす化学分析用のガラス器

具だらけで、冷凍した魚やら海洋観測機器がちらばっているまるで物置のような水産の研究室とちがってえらくアカデミックな印象を受けました。薬学の学生は一般によく勉強するし、実験など実に器用にこなすのに感心しました。見ることも聞くこともすべて私にとって目新しいことなので毎日楽しく過ごしています。

## Teaching Machine にはなりたくない

工学部講師 五 島 孝 仁

北陸の気候・風土がいやで生まれ故郷の富山を逃げ出した私が、どのような摂理か、今またこうして富山の地に導かれてまいりました。工学部にあって教育し、また研究する事は私にとって大きな喜びであると同時に、若輩なりに重荷と責任を感じております。現在科学技術が進歩する反面で、それを利用する人間の人格的、良心的頹廃を見るにつけ、工学部教育の果たす役割は単に社会の工業技術の発展に寄与する、いわゆるすぐれたモーレッツ技術者を作り出す事のみに終るのではなく、良心と良識の備わった人格的技術者・研究者を育成するための基礎となるべきであり、そのような技術

者・研究者が今の時代に一番必要とされているのではないかと思うのです。……………などと生意気な事を言っている理想主義者がこの私です。自分自身は理想とは遠くかけ離れた未熟な者ですが、常にビジョンだけは持って自己のすべてをぶっつけて精一杯生きる人生を送りたいと願っている私です。現在年令-28才；住所-砺波市で両親と同居；趣味-音楽・美術に広く（しかし浅く）親しむ程度；信仰-聖書に人生の基盤を置いているプロテスタント系クリスチャン。至らない人間ですが、よろしく御指導のほどお願い致します。

## 富山で思うこと

教育学部教授 三 塚 正 臣

富山にきて2か月、立山の秀峰はすばらしく、大学全体も落ち着いていて、また、人情のこまやかさは心をうつものがあります。

私の姓は珍しい姓で、富山地方とは全く関係がないと思っていましたが、まず、私の姓に「ツ」の入った地名を市内の呉羽にみつけ、さらに城端線の高岡の次の駅に二塚をみつけたときはおどろきました。多分一塚という地名もあるのではないかと目下地名さがし

を楽しんでおります。なるほど塚のついた珍しい地名や姓を多くみかけ、こうしてみると、わが故郷である宮城県の県北が私の姓の発生地と思っていたが案外富山地方と関係があるのではないかと考えています。私は「なにごとでも、出来るだけ精一ばいやっていくならば道は必ず開ける」とかねがね思っております。新しくまいりましたものですが精一ばいやっていきたいと思いますのでよろしく御願ひいたします。

## 新 任 の 弁

教育学部講師 安 達 勇 作

富山大学への就職の話があったときまず地図を拡げてみるほど富山県についてはほとんど知識がなかった。山形県に生まれたものの赴任する時はじめて日本海を

見ました。魚津あたりまでは想像していたような景色でしたが富山市に着いて工業化されているのにびっくりし、少しがっかりもしました。ゴミゴミした東京か

らきれいな静かな地に行けると期待していたわけでした。

赴任してからはや2か月にもなろうとしています。何をどうやったらよいのかただウロウロ過ごしているような状態です。今まで小さな子どもたちを相手ににぎやかに過ごしてきたので大学の静かさは何となく淋

しく感じられる時があります。しかし、この頃学生とも少しずつ話せるようになり、それなりに何とかやっていけるのではと思っています。富山の障害児教育については全くの白紙状態でみなさんに御指導いただきてやっていきたいと考えています。よろしくお願いします。

## オリンピックと私

教育学部講師 横 山 泰 行

今年は4年に1度巡ってくるオリンピックの年に当たります。私の精神のはてりも開催日が近づくにつれて高まっています。それは、私が小さい頃メインボールの旗を夢みたり、あるいは目頭が熱くなるシーン（ミルズやビレンの快走、ミュンヘンの男子バレー準決勝戦等）を多々目撃していることがなさせるわざかもしれません。現在のオリンピックに対して否定的な見解を持つ私ですが、人類の魂を強烈に揺さ振るこの

ようなイベントの存在理由に対しては何んら疑義を有するものではありません。

私は体育を専門とするものであります。これからの教育や研究において目頭の熱くなるシーンを現出させたり、あるいは漱石の言う「午前中の創作活動が、午後の休息の肉体に愉悅を与える」といった理想の境地まで自己を高めることができるならばと、この原稿を書きながら夢想している今日この頃の菲才な私です。

## 古くて新しい自分

教養部講師 山 本 孝 一

10年ばかり前、富山大学の五福キャンパスを富大生の僕がうろついていた。そこを今、ドイツ語教師の僕がまた歩いている。ところで僕は10年前、ここに自分をうっかり落してしまって拾い忘れたのだろうか、もう1人の僕に会ってしまった。今の僕と全く同じだけれど、まだ学生のままでいるらしかった。

生協の食堂でびっくりし、教室で授業してみてもぎょっとしたのだ。食堂に入って行くと相変わずさえない顔で彼が1人ぼつんとラーメンを食っていた。いやな予感がして授業に出かけたら教室にまで僕がいて、それで少しドイツ語を訳させると「彼ら」を「彼女」

と誤訳した。間違うところまで10年前と同じだ。今までいったい何してた。と叱ってやりたくなった。

五福キャンパスは僕にとって古くて新しいところだ。生き残りの自分とも仲良くやっていくつもりだが、それにしても自分自身まで古くて新しいのは困る。できることならただただ新しくありたい。

それで僕は、今の僕が少なくとも学生と教師ということ以外のどこかで10年前に比べ決定的に新しくなったところがないか一心に探しているところだ。だが、まだ何も見つからない。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## O.F.ボルノウ博士講演会の報告

〔西ドイツ、チュービンゲン大学教授(哲学・教育学)〕

国際交流基金の招へいで来日中のボルノウ博士を招き、教育学部第一会議室で4月17日(土)午前10時より富山大学と富山県教育委員会主催のもとに『人間とその

役割』と題して学術・文化講演会が開かれた。人間が何らかの役割を担い、社会的責任を負ってそれを正しく果たしていくことの重要なことは、現代の社会学や

行動科学などが指摘しているとおりであるが、しかし  
そうであるからこそ、人間は役割という結局はマスク  
であるものの奥にあるもの、つまり「自分自身である」  
という内的自由を見失ってはならないという主旨のも  
ので、同博士の哲学的人間学の立場から「役割」とい  
う概念を一面的に位置づけることの限界と危険が説か

れた。そのあとこの問題をめぐって実のあるシンポジ  
ウムもおこなわれた。所要時間は約2時間半。教官層  
を中心に120名をこえる参加者があった。同博士の富  
山訪問は昭和47年秋につづいて二度目である。

(教育学部・大塚記)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

## 学 部 だ よ り

### ●経済学部だより

- (1) 学部の付置機関として運営されている日本海経済  
研究所では、このほど研究年報第1巻を刊行した。  
北陸圏域のテーマを扱った4篇の力作が収録され、  
洛陽の紙価を高めている。
- (2) 学部はゼミナール制度を採用し必修科目としてい  
るが、ゼミナール生を連ねるゼミナール協議会では、  
学生の研究論文をあつめた「エストゥディオ」第19  
号を発刊した。学部学生の論文集としては遜色のな  
いレベルに達するものと評価され、旧高商系の十大  
学問でも好評をなしている。
- (3) 本年度の非常勤講師として「産業構造論」を担当  
される篠原三代平氏の講義が7月12日にはじまり16  
日まで続けられる。同氏は旧制高岡高商出の先輩で  
あるが、一橋大学教授、経済企画庁経済研究所長を

歴任し、ひろく国際的に知られる少壮の碩学である。  
ゼミナール協議会でも同氏を招いて公開講演会を催  
す計画である。

- (4) 同窓会（越嶺会）では6月4日に関東支部総会を、  
東京は日本橋の鉄鋼会館で開いた。出席者は学部卒  
93名、高岡高商卒87名であり、はじめて前者が後者  
を凌駕する画期的風景が見られた。前身校の旧制高  
岡高商OBが圧倒的多数を占めた従来の状況に顧み、  
時代の移ろいが感ぜられた。高商旧師として蒲生・  
小山・不破・今井の4先生が、学部旧師として池田  
先生が出席し、学部から新田学部長と成瀬事務長が  
参列した。矍鑠98歳の蒲生先生が漢詩を朗吟された  
のは満堂の圧巻であった。母校に結ぶ師弟の睦びと  
同窓生の交歓に興味尽きず、学部の前途への期待  
が語られた。

### ●工学部だより

工学部からは、毎年恒例の新学期ソフトボール大会  
の報告。5月8日体育会主催の大会には各学科、院生  
合せて20チームが参加、電気科アンサンブル（4年）  
が剣菱（化工教職員・院生混合）を7対1で破って優

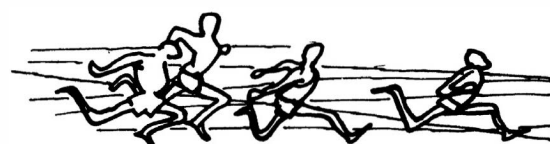
勝。6月1日からの教職員スポーツ同好会主催の学科  
対抗戦では、事務Aチームが強剛工化金属チームを16  
対5で破って初優勝。8月27日には、これも恒例の北  
陸三大学工学部スポーツ大会が高岡で開催される。夏  
休みの終わり、学生諸君の応援が期待されるところで  
ある。

### ●学生部だより

第28回北陸三大学学生総合体育大会が、福井大学、  
北陸三大学学生体育競技連盟の主催で7月4日（日）  
を中心に別記会場で実施され、若い力と技が競い合っ  
た。

なお、開会式に於て本学より別記 金子龍一君 が連

盟表彰された。





# 競 技 日 程

種 目	姓 別	期 間	開始時間	競 技 会 場
陸 上 競 技	男・女	7月4日	10:00	県 営 陸 上 競 技 場
野 球	男	7月4日 (雨天の場合10日までに延期)	9:00	県 営 野 球 場
庭 球	男・女	7月3日・4日 (雨天の場合5日に延期)	9:00	福 井 大 学 庭 球 場
軟 式 庭 球	男・女	7月4日 (雨天の場合5日に延期)	9:00	福 井 市 西 公 園 庭 球 場
卓 球	男・女	7月4日	10:00	福 井 大 学 附 属 小 ・ 中 学 校 体 育 館
バ ド ミ ン ト ン	男・女	7月3日・4日	9:00	福 井 大 学 体 育 館
バ レ ー ボ ー ル	男・女	7月4日	10:00	セ ー レ ン 体 育 館
サ ッ カ ー	男	7月2日～4日	15:00	県 営 サ ッ カ ー 競 技 場
ラ グ ビ ー ル フ ッ ト ボ ー ル	男	6月20日・27日・7月4日	15:00	福 井 大 学 運 動 場
剣 道	男・女	7月4日	10:00	明 道 中 学 校 体 育 館
柔 道	男	7月4日	10:00	県 武 道 館
水 泳	男・女	7月4日	10:00	福 井 大 学 プ ー ル
バスケットボール	男・女	7月4日	10:00	藤 島 高 校 体 育 館
ヨ ッ ト	男・女	7月3日・4日 (雨天の場合5日に延期)	9:00	三 国 ヨ ッ ト ハ ー バ ー
準 硬 式 野 球	男	7月4日 (雨天の場合10日までに延期)	10:00	福 井 市 営 野 球 場
ハ ン ド ボ ー ル	男	7月4日	10:00	羽 水 高 校 体 育 館
空 手 道	男	7月4日	10:00	日 新 小 学 校 体 育 館
弓 道	男・女	7月4日	9:00	福 井 大 学 弓 道 場
体 操	男・女	7月4日	10:30	福 井 商 業 高 校 体 育 館
自 動 車	男・女	7月4日	8:30	福 井 自 動 車 学 校
創 作 舞 踊	男・女	6月26日	14:00	福 井 大 学 体 育 館
少 林 寺 拳 法	男	7月4日	13:00	福 井 大 学 武 道 館

# 北陸三大学学生体育競技連盟表彰者（本学分）

## 陸上競技

金子 龍一

（教育学部中学校教員養成課程4年）

## 実績

昭和46年度 北信越学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投 1 位

第23回北陸三大学学生総合体育大会

砲丸投 1 位

昭和47年度 北信越学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投 1 位

第24回北陸三大学学生総合体育大会

砲丸投, 円盤投, ハンマー投  
1 位

全日本学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投 9 位

昭和48年度 国民体育大会（沖縄）

砲丸投 9 位

北信越学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投, 円盤投 1 位

第25回北陸三大学学生総合体育大会

砲丸投, 円盤投, ハンマー投  
1 位

北信越学生秋季陸上競技大会

砲丸投, 円盤投 1 位

昭和49年度 北信越学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投, 円盤投 1 位

北陸三県総合競技大会

砲丸投, 円盤投 1 位

全日本学生陸上競技対抗選手権大会

砲丸投 12 位

北信越学生秋季陸上競技大会

砲丸投, 円盤投 1 位

昭和50年度 北陸三県総合競技大会

砲丸投, 円盤投 1 位

第27回北陸三大学学生総合体育大会

砲丸投, 円盤投, ハンマー投  
1 位

北信越学生記録保持

砲丸投 13m85

円盤投 43m72

## 詠者紹介

詠者は工学部電子工学科の市村昭二教授。アラ  
ラギ派。専攻は有機電子物性で生体色素の問題  
を取り扱われており、特に現在はクロレラの大  
量培養と重水の生物学的濃縮法の研究に力を注  
がれている。

生きる証

春水

光り苔 肉食  
人し証という

われもまたその 光背を負う

公害の 軋器が走る うつせみを

もがきもがきつ 我も生きなむ

女ひとり 男ひとり 信じあい

うらざり合う 生きる証に

体制が 不信の生を 腐植し

うつろいが尚 醗酵をとめず